

# 男女がともに 輝くために

美浦村男女共同参画  
～共に輝くみほの会～

問合せ 企画財政課  
☎029-885-0340(内)208

## 関東大震災から100年 ～自助・共助・公助～

松山和子

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災から今年で100年の節目を迎えます。この地震により10万人以上の命が奪われました。関東大震災100年が現代の社会生活に適合した防災について考える契機になればと思います。

### 防災リテラシーを 身に付けよう

防災リテラシーとは、災害に遭遇したとき、目の前の状況に対して適切に行動し、想定外の事態から自分自身を救う能力の事です。

### 地震が起きた場合の 自助・共助・公助

#### 自助

●「身を守ること・安全」自らが防災に取り組む意思を持つこと(防災の基本)。  
まずは、自分の身を守ることに専念することが大切です。

- ・火を使っている時は、慌てず消す。まわりを確認し、出火につながらない。
- ・わが家の安全確認・家族の安否確認。大きな声お互いを呼び安否を確認する。状況を確認し、避難の準備をする。
- ・余震や津波に注意し、避難所や避難場所を確認。避難するときは、見やすい所に油性ペンで連絡を残す。

#### 共助

●地域コミュニティ・自治会等の自主防災組織を活かす。「人命救助が第一優先」とし、支援が必要とされる方へのコミュニケーション参加、利用を支援の力とする。

日常生活においては、近隣住民の支援により救助されることや、お互いの声かけが重要なポイントになり、情報へ

とつながりができます。自治会、子ども会、老人会、サークル等の活動がネットワークにもつながります。

#### 公助

●自治体・行政の防災部局組織の働き。

市町村ごとに地域に合せた取り組みが行われています。防災・災害に合わせ、消防・警察・自衛隊等の公的政策も位置づけられています。

自助・共助・公助は、現代の社会生活において、「誰一人取り残さないためのインクルーシブ防災」となりつつあります。自助では、一人でできる限界があります。共助は、地域が・地元が・近隣どうしが、お互い様の気持ちで、細やかな支援へとつながります。そして公助においては、行政や公的機関が、人命救助や復旧・復興を担います。「自助・共助・公助」の連携を考え、それぞれが災害対応力を高めることが大切になります。

100年前におきた関東大震災を忘れずに防災・災害に対し自らできることをひとつずつ取り組んでいきましょう。



## みほ文芸

### 正調俚謡 日和吟社 字結び「送・火」

盆の送り火小さくゆれて名残惜しそに還る亡父  
猛暑続きでクーラー効かせ好きなことして送る日々  
火種作って決戦煽りそして終いに御当選  
先祖迎えて賑わう家族恩に感謝の送り盆  
海の彼方に送り火揺れて父母もいるのか岩の影  
慰霊特攻土浦花火知って納得八十路坂  
古い歴史の送り火揺れて無病息災願い込め  
お気をつけてと一声かけて帰る車を送り出す  
夏の風物線香花火ひかり落ちぎわまわり染め  
無事に今年も送り火終えて盆の提灯しましう朝  
爪に火点し暮らした母が利権まみれの世を嘆く  
三年送られ花火の季節晴らす鬱積ドドドーン  
早い迎え火好物供え母の新盆暑い夏  
傍に寄りそう八十路の夫婦互い支えて送るまで  
赤い提灯花火のゆかた爺といっしょの盆迎え  
認知進んで施設に通所夫を見送る切ない日  
八月の俳句(題 当季雑詠)  
老化とは未知との遭遇彼岸花  
この梅雨に恋も流れる男女の川  
夕立きて濡れたるままのひともあり  
雷の力凄まじ緑湧く  
夏空と子馬の駆ける北便り  
亡き父の好きな朝顔咲きにけり  
雲海に突入千歳空港へ  
西瓜割右だ左だ後ろだと  
「美味いよ」とどや顔梅干梅ジュース  
生垣の武家の通りを日傘行  
遠い日の水着の写真二度見する  
流れ星眺め遠き日走馬灯  
相棒はパズルとテレビ夏の風邪  
子鳥も雀も啄くこぼれ米

### (五十首順)

- 石戸 葎華
- 伊藤 葉子
- 井戸 賀蘇道
- 上野 八千代
- 小蘆 江久美
- 門脇 悠美
- 木村 幸子
- 篠原 美千代
- 関根 秀子
- 高橋 一步
- 田島 草実
- 塚本 夏雲
- 沼寄 朋香
- 長合 川悦子
- 増尾 青蓮
- 山岡 亜子
- (五十首順)
- 青野 安佐子
- 石毛 恵美子
- 市川 紀行
- 海道 民子
- 小林 美佐恵
- 高柳 幸子
- 田島 早苗
- 中島 輝子
- 長田 敏笑
- 増尾 尚子
- 松葉 統子
- 宮崎 きみ枝
- 村崎 典子
- 山口 美代子